

「里山の維持再生ゾーン」の実現に向けて

～市民協働による持続可能なまちづくりのモデルケースとして～

第3回『鹿背山城何でも知ろう連続講座』

1月26日、「鹿背山何でも知ろう会」が鹿背山城見学会

学研木津北地区に、山城の城跡があることをご存じですか。

この山城の名称は、鹿背山城といい、一般的に知られている天守閣を持つ城とは異なり、山の尾根に築かれた石垣のない中世の山城です。

この日、この山城の整備を進める「木津の文化財と緑を守る会」の研究部会である「鹿背山何でも知ろう会」が見学会をおこないました。

■鹿背山城とはどのような城？

約40人の参加者は、鹿背山城を見学する事前学習として、木津の文化財と緑を守る会の岩井会長から「鹿背山城の概要」、内田氏から「鹿背山城の防御施設」について講演がありました。

講演では、鹿背山城の築城年は不明であるが、史料などから15世紀には存在しており、中世城郭としては山城国(現在の京都府)最大であることなどの話がありました。

■鹿背山城までの通路には

鹿背山城の城郭までの通路には、山の尾根を人工的に削り(堀切)、谷の中に縦土塁を造るなど防御の知恵が多くみられます。

参加者からは「山城を造るには、相当の費用や月日が必要であったと思う。現在のような機械が無い時代にも関わらず、この規模の山城を築城したことに驚いている。」との話がありました。

■鹿背山城からの眺望は

鹿背山城までの急な斜面を登った先に、ようやくたどり着く主郭からは、木津川市内のみならず、京田辺市までを一望できます。参加者からは「大和国にとって、物流の拠点であった木津川を見晴らす(監視する)には、この上ない地点であると考えます。中世に戻った感じを楽しめた。鹿背山城からの眺望を体験できて良かった。」との声がありました。

